

無電柱化推進検討会議 議事概要（案）

1. 日時：平成26年9月8日（月） 15：00～16：30

2. 場所：合同庁舎2号館低層棟共用会議室1

3. 議事要旨：

（1）報告事項

無電柱化に関する最近の動向

- ・無電柱化率については精査の後、共有する。

（2）検討事項

1) 電線共同溝事業実施済箇所で残置されている電柱・電線への対応について

- ・電線共同溝が整備済みの箇所で電柱・電線が残置されている箇所について、関係者間で協力し撤去に努める。
- ・10月を目処に道路管理者が状況を把握し、年内までには対応の方向性を検討する予定。

2) 「無電柱化に係るガイドライン」による当面の対応について

- ・計画を見直すまでの当面の対応として、これまで通り「無電柱化に係るガイドライン」による整備を進める。

3) 低コスト手法の検討について

- ・無電柱化の低コスト手法の検討を行うため「低コスト手法技術検討委員会（仮称）」を設置し検討を進める。
- ・自民党の無電柱化小委員会でも報告されたように、世界で標準的整備手法である直接埋設や小型ボックス活用について、海外先進国事例の手法や規格、過去の問題点などを参

考にし活用すべき。

- ・直接埋設の適用の議論において、予定されている実験内容では、ケーブル類の経年変化に関する検証が欠けている。各種ケーブル類は、少なくとも10年～20年と使用するものであり、地中に直接埋設することによる、雨水・四季の温度差・凍結・土中の科学的変化等を検証し、委員会でも十分に検討されたい。
- ・夜間工事など工事の効率性が悪い個所もある。工事の効率を良くするための工事手法等の検討が必要。
- ・低コスト手法の検討に際しガス、水道、下水道事業者の意見も参考にすべき。
- ・低コスト手法における費用負担については、今後整理する必要がある、普及促進のための制度的な検討も必要。

4) 新たな計画策定に向けた取り組みについて

- ・新たな計画策定には、事業者の視点だけでなく生活者の視点も必要。
- ・先行的な取り組みをしている自治体の取り組みも参考にしながら、各主体の役割分担を踏まえつつ、検討を進める。

(3) その他

今後のスケジュール

- ・引き続き本会議で、残置されている電柱・電線についての対応のフォローアップ、低コスト手法の検討状況の確認、新たな計画策定に向けた方向性の検討等を実施していく。